

TOKAS Project Vol.2

**FALSE SPACES 虚現空間**

2019年10月12日(土)～11月10日(日)

トーキョーアーツアンドスペース本郷

文化でつながる。未来とつながる。

TokyoTokyo  
FESTIVAL**一立ち現れる虚の空間**

トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) では、2001年の開館以来、海外のアーティスト、キュレーター、アートセンターや文化機関などと協働して展覧会や関連プログラムを実施してきました。2018年より開始した TOKAS Project は、国際的な交流を促進し、多文化的な視点を通じ、アートや社会など、様々なテーマについて思考するプログラムです。第2回となる TOKAS Project では、香港アーツセンターと協働し、香港を拠点に活動するキュレーター、イップ・ユック=ユーとともに、日本と香港のメディア・アートを介して、地理的、物理的のみならず仮想の中にあられる空間について問う展覧会「FALSE SPACES 虚現空間」を開催します。

**展覧会概要**

展覧会名: TOKAS Project Vol. 2 「FALSE SPACES 虚現空間」

英語タイトル: TOKAS Project Vol. 2 "FALSE SPACES"

会期: 2019年10月12日(土)～11月10日(日)

会場: トーキョーアーツアンドスペース本郷 (東京都文京区本郷2-4-16)

開館時間: 11:00 - 19:00 (最終入場は30分前まで)

休館日: 月曜日(10月14日、11月4日は除く)、10月15日(火)、11月5日(火)

入場料: 無料

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース、香港アーツセンター

共同キュレーション: イップ・ユック=ユー (IP Yuk-Yiu・香港)、

香港アーツセンター・キュラトリアルチーム (Connie LAM、Gordon LO、Tobias TANG)

参加作家: 伊藤隆介、津田道子、永田康祐

ン・ツー=クワン (NG Tsz-Kwan・香港)、ステラ・ソー (Stella SO・香港)、WARE (香港)

協力: 香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部、DESIGN TRUST、株式会社ストラタシス・ジャパン

ウェブサイト: [www.tokyoartsandspace.jp/](http://www.tokyoartsandspace.jp/)Hong  
Kong  
Arts  
Centre  
香港  
藝術中心DESIGNTRUST  
信言設計大使  
AN INITIATIVE OF THE  
HONG KONG AMBASSADORS  
OF DESIGN

&lt; お問い合わせ &gt;

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 市川、竹野

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)

## ■ 展覧会について

東京と香港は、その都市部の規模に対する人口の多さに順応するために、建物は上へ上へとせり上がり、公共空間でのパーソナルスペースは狭小化されるなど、空間に対して共通の課題を抱えています。また、空間とは、地理や場所といった物理的状態に加え、私的、心理的な空間、そしてサイバースペースに至るまで、観念的なものも含め様々な解釈が可能な概念です。そしてアーティストは自身が追い求める世界観を表現するために、現実世界とは異なる空間を作品の中に展開させていきます。本展では、日本と香港で活躍するメディア・アーティスト6組の作品をとおして、さまざまな空間認識を探求していきます。また、会期をとおして日本と香港の互いの交流や対話を促し、2020年2月には香港アーツセンターでのトーク・イベントの開催、またその後、展覧会開催を予定しています。

## ■ 関連イベント

### オープニング・セレモニー&トーク

日時:2019年10月12日(土)16:00-18:00(予定)

出演:イップ・ユック=ユー、伊藤隆介、永田康祐、ン・ツー=クワン、ステラ・ソー、WARE

会場:トーキョーアーツアンドスペース本郷

### オープン・ディスカッション

参加アーティストとキュレーターによるオープン・ディスカッションを会期後半(11月)に予定しています。

詳細は決定次第 TOKAS ウェブサイトにて発表します。

※日英逐次通訳あり

※参加アーティストは変更となる場合がございます。予めご了承ください。

## ■ 本展キュレーター

### ■ イップ・ユック=ユー IP Yuk-Yiu

平成30年度リサーチ・レジデンス・プログラム <2018年5月 TOKAS 滞在 >

OPEN SITE 2017-2018『PLAY.GROUND』参加

#### ■ プロフィール

メディア・アーティスト、教育者、インディペンデント・キュレーター。1974年香港生まれ。香港を拠点に活動。1998年マサチューセッツ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン(ファインアート)修了。作品はヨーロッパ・メディア・アート・フェスティバルやニューヨーク映画祭、映像祭、トランスメディアール、NTTインターコミュニケーション・センターなど国際的な展覧会で広く紹介されている。主な展覧会に「OPEN SITE 2017-2018『PLAY.GROUND』」(TOKAS本郷、2017)など。



### ■ 香港アーツセンター・キュラトリアルチーム (Connie LAM、Gordon LO、Tobias TANG)

## ■ 香港アーツセンター Hong Kong Arts Centre

1977年に設立された香港唯一の非営利芸術団体。現代アートの促進に取り組み、劇場、映画館、ギャラリー、アートスクール、スタジオ、カフェ、オフィスを併設。展覧会、パフォーマンスやスクリーニングなど、香港内外を問わず、さまざまな分野の幅広いアーティストを紹介するプログラムを発表し続けている。



## キュレーター・テキスト | イップ・ユック＝ユー

「FALSE SPACES 虚現空間」は、トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) と香港アーツセンターおよびインディペンデント・キュレーターのイップ・ユック＝ユーとのコラボレーションによる国際文化交流展です。本展では、伊藤隆介、永田康祐、ン・ツー＝クワン (NG Tsz-Kwan)、ステラ・ソー (Stella SO)、津田道子、WARE の6組のアーティストの作品を紹介し、日本と香港の現代アーティストの目をおして空間の多面的な性質とその創造について掘り下げます。それぞれのアーティストは、批評的なリサーチと革新的な創作のひとつの形として空間の創造を模索しながら、作品をおして彼ら自身の「FALSE SPACES 虚現空間」のビジョンを構築し、表現していきます。

世界で最も人口が多く先進的な大都市であるがゆえに、東京と香港の両都市は、空間の問題において、今日の国際都市が直面している似たような課題を抱えています。両都市は6,000人/km<sup>2</sup>超の人口密度を抱え、土地利用や人口過多、地価の高騰、複雑な交通計画など、空間に関する喫緊の課題に直面しています。これらの空間の問題は、この2つの巨大都市が直面している、歴史的な環境、経済発展、文化的背景とも結びついた、非常に興味深い社会的なダイナミクスと仮説を露呈しました。さらに、問題解決のために採り入れられた対策は、住民の生活態度や暮らし方をも反映しています。この意味において、東京と香港は、2つの領土や地理的空間の目印として存在するような、単なる名称や代用ではなく、むしろ、特有の文化、伝統、歴史に根ざしたそれぞれの市民たちのある種の気質やアイデンティティ、態度を表す、抑制された空間なのです。

地理的空間、より正確に言うならば、領土または所有地としての空間は、植民地主義と資本主義によって高度に形成され定義された現在の国際的な政治と経済の秩序にとって、最も重要です。それにもかかわらず、空間は、領土の観念だけでは終わらない、さらに幅広く複雑な概念です。時空、宇宙、公共空間、私的空間、個人空間、心的空間からサイバー空間などに至るまで、空間が持つ多様な意味とその変化に富んだ関係性は、「物理現象、社会的慣習、象徴的な考え」と多岐にわたります。空間は現実と仮想の間を揺れながら、抽象と具象の領域を横断します。言い換えれば、空間は、私たち自身について、また、私たちの拡張した環境やそれ以上のことを示してくれるのです。

さて、展覧会テーマである空間は、キュレーションの重要なコンセプトですが、単にそれを探求や理解の対象として捉えるのではなく、むしろ、展覧会は空間を理解し、空間を創造的に批評的な関与のための手段や方策として利用し

ようとしています。本展のねらいは、空間の流動性と転覆可能性を示すために、「虚偽」の概念と融合することで、空間のダイナミックで戦略的な側面に光を当てることです。

虚偽とは、真実でない、無法な、架空の、人為的なものを指します。特に「虚偽」を人為的な二重化の手法として考えた場合、アーティストは常に偽の空間を作り上げ、それを物理的または仮想的、もしくは精神的な空間にすることを目指してきました。美術史は「虚偽の空間」の研究と制作における冒険と実験に動かされています。西洋絵画に遠近法が導入されて以来、パノラマ技法の発明や立体写真撮影術の発見、キュビズムのような芸術運動における時空の演出、シチュアショニストが提唱した都市空間の過激な政治問題化、そして昨今の新たなメディア・アートにおけるバーチャルリアリティー技術の研究まで、アーティストたちは長い間、物理法則や文化的規範に逆らうような、別世界や別の現実、空間の見方を演出するための物や体験、技法を作り出すことに執着してきたのです。

「FALSE SPACES 虚現空間」は、革新的な創作の可能性を作り出すため、空間の創造や空間体験について、異文化間で探求すること、すなわち、空間の規範的な予想や構造、知覚に疑問を呈し、それに挑むことを企てています。まさしく「虚偽」という言葉はまた、空間的実践の媒介的な性質や人為性を強調し、私たちの日常生活や環境に与えられた、一見ニュートラルな空間の構造の陰に潜んでいる力を想起させるのです。

本展では、3D スキャンのプリントオブジェ、アニメーション、自動運転装置、デジタル写真とビデオのインスタレーションなど、さまざまな手法や素材を用いた多岐にわたる作品を扱い、現代の日本と香港のアーティストたちが見ているような空間の実態の多様性と複雑さを伝えていきます。このプロジェクトでは独創的な作品の展示をおして、日本と香港のアーティストたちのコラボレーションを促し、アジアの隣人である両国から生まれた空間というテーマに関する意見交換と対話を目的として、彼らの独創的なビジョンと批評的な提言を紹介していきます。

1 Tony Bennett, Lawrence Grossberg, Meaghan Morris (ed), *New Keywords: a revised vocabulary of culture and society*, Malden, MA: Blackwell, 2005.

(参考: トニー・ベネット、ローレンス・グロスバーグ、メーガン・モリス編『新キーワード辞典 文化と社会を読み解くための語彙集』、河野真太郎、秦邦生、大貫隆史訳、ミネルヴァ書房、2011年。)

参加作家／略歴／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

### 伊藤隆介 ITO Ryusuke (日本)

1963年北海道生まれ。1992年シカゴ美術館附属大学大学院研究科修士課程修了。1988年東京造形大学造形学部デザイン学科卒業。ミニチュアのフィギュアやライブビデオ、モーターや視覚装置を用いて、革新的で空想的なメディア風景を創造する映像インスタレーションで知られる。近年の主な展示に「The Remains of Cinema」(Künstlerhaus Halle für Kunst & Medie、グラーツ、オーストリア、2018)、「札幌国際芸術祭」(2017)など。



1. 《バグドロップ》映像インスタレーション、2012  
写真：小牧寿里

### 津田道子 TSUDA Michiko (日本)

1980年神奈川県生まれ。2013年東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。映像の特性にもとづいた制作を主軸に置き、映像、インスタレーション、パフォーマンス作品を制作している。近年の主な展示に「あいちトリエンナーレ 2019」、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」(森美術館、東京)など。

本展では、津田が世界各地の空港で撮影した画像を3Dプリントに起こした立体作品《Journey》を中心に発表します。

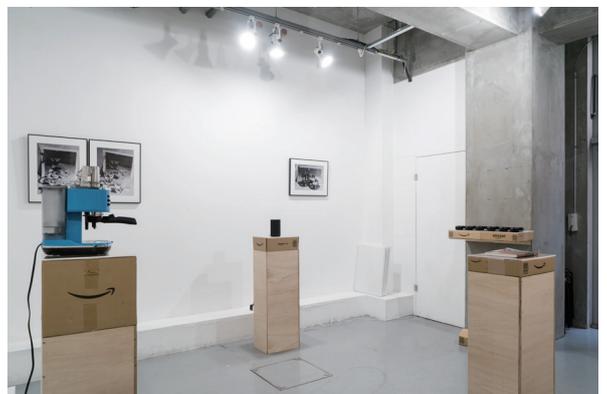


2. 《Journey》3Dプリント、2013-  
写真：ダミアン・ギシャル

### 永田康祐 NAGATA Kosuke (日本)

1990年愛知県生まれ。東京芸術大学映像研究科博士後期課程在籍。東京藝術大学大学院美術研究科修了。主に映像や写真を用いながら、さまざまな経験の条件となっている技術や制度に着目して制作を行っている。主な展示に「あいちトリエンナーレ 2019」(愛知県美術館)、「第10回恵比寿映像祭」(東京都写真美術館、2018)、「OPEN SITE 2016-2017『Therapist』」(トーキョーワンダーサイト本郷、東京、2016)など。

本展では、オーディオ・ガイドに主軸を置いた新しい鑑賞体験を提示します。



3. 《オーディオ・ガイド》インスタレーション、2018

参加作家／略歴／広報用画像 ※この他にも広報用画像を用意しております。詳しくは広報担当までお問い合わせください。

#### ン・ツー=クワン NG Tsz-Kwan (香港)

2000年セントラル・セント・マーチン(イギリス)にて修士号取得。1997年香港中文大学美術学士課程卒業。電子アートや映像作品などを長きにわたり手掛け、インタラクティブ・メディア・デザインをアートの展覧会ほか商業的な分野にも応用し発表している。また、さまざまなメディアを用いた統合的なデザインソリューションを開拓している。自身のデザインスタジオ N.T. がハリウッド拠点の映画製作会社 yU+co., とパートナーシップを結んだ2006年から、yucolabの共同創立者を務める。

本展では、自動運転の椅子が室内を移動しながら作品を鑑賞する体験型インスタレーションを展示します。



4. 《(G)Local Empty System》  
ミクストメディア・インスタレーション、2018

#### ステラ・ソー Stella SO (香港)

2002年香港理工大学デザイン学科卒業。グラフィック・アーティスト、アニメーター、イラストレーターとして活躍し、受賞歴も多数あるソー独特の表現力に満ちたビジュアルスタイルと、香港の暮らしの何気ない物事や風景への洞察力溢れる作品は、本、雑誌、テレビ広告、ギャラリーなどで広く取り上げられている。主な展示歴：「旧正月ランタンディスプレイ 2019 - 満開の輝く孔雀」(香港文化センター広場、2019)、「口伝の遺産シリーズII 香港無形文化遺産代表作リスト」(三棟屋博物館、2018)など。

本展では、香港の都市風景を描いたアニメーションを展示します。

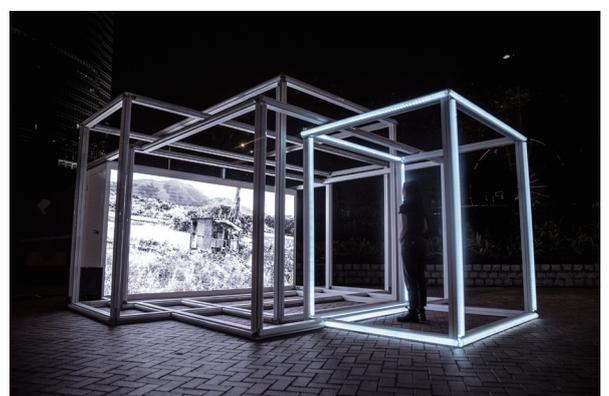


5. 《Very fantastic》アニメーション、2002

#### WARE (香港)

WAREはサミュエル・イップとトーマス・イプが設立した香港のメディアアート・スタジオで、空間デザインから体験型デザイン、オーディエンス・エンゲージメントまで、さまざまな作品でテクノロジーと創造性の融合を目指す。イノベーションへの信念を強く抱き、先端のメディアテクノロジーを用いたデジタル体験の未来ビジョンを描く。近年はIncubator for Film and Visual media in Asia (ifva)の委託による映像インスタレーション《MNEMONIC》(2018)で大きな注目と賞賛を得た。

本展では、映像とLEDの構造体を組み合わせたインスタレーションを展示予定。



6. 《Mnemonic》  
オーディオビジュアル・インスタレーション、2018

『TOKAS Project Vol.2 「FALSE SPACES 虚現空間」』  
広報用画像申込書

Fax 番号: **03-5245-1154**

Email: **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください)

1 2 3 4 5 6

掲載媒体名(特集・コーナー名)

種別 TV ラジオ 新聞 フリーペーパー ネット媒体 その他( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送( 月号)

貴社名

ご担当者名

Tel

Fax

E-mail(画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

※ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただく目的のみ利用させていただきます。

※お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

【注意事項】

※画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。

※画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1~2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。

※作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。

※提供した画像データは、使用后速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。

※情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。

※取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVDを一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

<お問い合わせ> ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当:市川、竹野

TEL: 03-5245-1142 / FAX: 03-5245-1154 / E-mail: press@tokyoartsandspace.jp